

# 特別委員会を廃止

◎本町が推進するCATVのあり方や議会中継、自主製作放送番組などについて調査検討するために設置した「議会中継等自主制作番組放送推進特別委員会」をこの度、廃止することとした。

◇

「神石高原かがやきネット」(CATV)は、23年7月から開始の地上デジタル放送対応に伴う難視聴地域の解消、一体化された行政告知、防災対策、IP電話、連絡通報機能、高速インターネット接続通信などが計画通り完成し、加入率は97%に達した。

## 最終報告 「議会中継等自主制作番組放送推進特別委員会」

- ◆事業運営において、過疎・高齢化の進展など、憂慮すべき事も多く今後の事業展開に期待する。
  - ◆設置以来2年間の調査検討の結果、事業開始後ほぼ順調な事業運営が継続され、初期の目的は達成されたので廃止する。
  - ◆今後、議会において必要に応じて新たな特別委員会設置や議員全員協議会などで調査検討する。
- 「神石高原かがやきネット」のさらなる有効的な活用を希望する。

**問** ふるさと物産館オープンは



村上克朗議員

**答** 未来創造計画で取り組む

**Q** 東京のふるさと物産館「広島ゆめてらす」は新たに銀座に7月16日オープンするが、この事業を活用して町内産業への波及効果を高め、成果を上げるべきでは。

**A** 町長  
県から再開に関しての説明を受け、商工会・道の駅・百探館などに説明書を配布している。

**Q** 商品の製造販売業務を行っている人達にどのようにアピールし、特産品の拡大を図るのか。

**A** 町長  
「未来創造計画」の6次産業化により、特産品の製造販売に取り組む。出品には厳しい条件があるため商品を選別し取り組む。

**Q** 昨年6月定例会で産直3店舗の統合について、カリスマ的な社長を公募採用し、出荷者協議会も統合し、将来に向け、維持拡大できる体制づくりを図るとの事であったが今後の取り組みは。

**A** 町長  
人選に苦慮している。今後は町内へ募集をかけ、統合について検討したい。

**Q** 町が株の大半を持つており出荷者は安心感があるが、店自体のやりがい・意欲などが出にくい場合がある。

**A** 町長  
町の持ち株を民間に少し売却してはどうか。



182 ステーション店舗内

**Q** 福山でのホテル火災をうけての、本町の宿泊施設などへの防災査察状況は。

**A** 町長  
ホテル・旅館10施設30棟を査察した。良好2施設3棟、違反6施設25棟、消防用施設不備2、防火管理不備7、その他の不備4施設であった。改善を求めている。

**問** 今後の新エネルギー導入は



木野山孝志議員

**答** 小規模発電と木質バイオマス

**Q** 公共施設への太陽光導入において、目標とされた効果は表れているのか。

**A** 町長  
4中学校は23年度の売電実績が58万7千円で教育面ではエコ対策となっている。本庁舎については設置し間もないので実績は上がっていない。

**Q** 今後の新エネルギー導入の方向性は。

**A** 町長  
小水力発電を自家発電に利用できないか、戦略

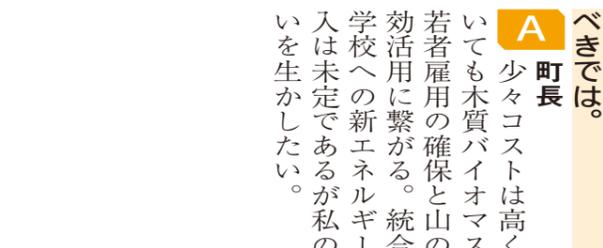
**A** 町長  
室での検討課題だ。開発計画に基づく申請で予算化されるので、豊松の小水力発電に適用し発電所として復活すれば良い。農業用水・上下水の流れを利用しての小水力発電の研究も農水省の予算が付いている。本町の自然を利用した自然エネルギーへのウエイトを高め、方策が先進的な取り組みとなるのでは。

**Q** エコなまちづくりを目指した「新エネルギー

ビジョン」をもう少し進化・拡大したい。

**A** 町長  
脱原発から、地域での発電が地域活性化につながる。小規模の発電所が本町に合うと思う。太陽光は初期投資が必要で木質バイオマスを目指しているがコストがかかる。研究・検討が必要だ。

**Q** 太陽光発電は効率が悪い。若者の雇用と産業振興を目的に木質バイオマスに注目されているが、新統合中学校へのバイオマス施設を導入す



増えつつある太陽光発電パネル設置

**A** 町長  
少々コストは高くついても木質バイオマスが若者雇用の確保と山の有効活用につながる。統合中学校への新エネルギー導入は未定であるが私の思いを生かしたい。

**問** 「森林セラピー基地」認定申請すべきでは



寄定秀幸議員

**答** 認定申請に取り組む

**Q** 「森林セラピー基地」は、森林医学の面から専門家に実証され、施設・自然・社会条件が一定の水準で整備された地域であり全国では48カ所認定されている。

**A** 町長  
「森林セラピー基地」の認定申請に取り組む。「セラピーのまち」を高らかに宣言する。

**Q** ペットブームの陰で、捨て犬や野良猫が増え、全国では22万匹以上の犬や猫が殺処分されている。

**A** 町長  
仙養ヶ原の「災害救助犬訓練センター」において、動物愛護センターから殺処分予定の犬を譲り受け、災害救助犬やセラピードッグに訓練・育成している。「殺処分からの再生」の素晴らしい取り組みである。この施設のある本町が率先し、

「ペットの殺処分ゼロ」に取り組むべきでは。

**A** 町長  
殺処分を減らすため、動物愛護センターと共に、動物愛護精神の啓発に努める。

**A** 町長  
崇高な理念に基づいた「災害救助犬訓練センター」の取り組みに、さらなる支援をしたい。動物の命を大切にすることが、取り組みは大変重要であり、「殺処分ゼロのまち」を高らかに宣言したい。



小学生と触れ合うリーベと夢之丞（仙養地区民運動会）

**A** 教育長  
ほとんどの学校で動物を飼っており、道徳の時間やふれあい体験の中から、生命を尊重する動物愛護の精神を培っている。

**Q** 「介護支援ボランティア制度」導入は。

**A** 町長  
現段階では時期尚早と思われ、導入は考えていない。